

令和2年12月高浜市議会定例会会議録（第3号）

日 時 令和2年12月9日午前10時

場 所 高浜市議場

議事日程

日程第1 一般質問

本日の会議に付した案件

議事日程のとおり

一般質問者氏名

1. 杉浦康憲議員 (1) 令和3年度予算編成に向けた市政クラブの政策提言について
～第6次高浜市総合計画アクションプランについて～
(2) 投票率の向上について
2. 神谷利盛議員 (1) 高浜市市制施行50周年記念事業について

出席議員

1番	荒川 義孝	2番	神谷 直子
3番	杉浦 康憲	4番	神谷 利盛
5番	岡田 公作	6番	柴田 耕一
7番	長谷川 広昌	8番	黒川 美克
9番	柳沢 英希	10番	杉浦 辰夫
11番	北川 広人	12番	鈴木 勝彦
13番	今原 ゆかり	14番	小嶋 克文
15番	内藤 とし子	16番	倉田 利奈

欠席議員

なし

説明のため出席した者

市 長	吉岡 初浩
副 市 長	神谷 坂敏
教 育 長	都築 公人
企 画 部 長	深谷 直弘
総合政策グループリーダー	榊原 雅彦
秘書人事グループリーダー	杉浦 崇臣
総務部長兼選挙管理委員会書記長	内田 徹

行政グループリーダー	板倉宏幸
行政グループ主幹	久世直子
財務グループリーダー	竹内正夫
財務グループ主幹	清水健
市民部長	磯村和志
経済環境グループリーダー	田中秀彦
経済環境グループ主幹	東條光穂
福祉部長	加藤一志
地域福祉グループリーダー	加藤直
介護障がいグループリーダー	野口恒夫
福祉まるごと相談グループリーダー	野口真樹
健康推進グループリーダー	内藤克己
こども未来部長	木村忠好
こども育成グループリーダー	磯村順司
文化スポーツグループリーダー	鈴木明美
都市政策部長	杉浦義人
土木グループリーダー	杉浦睦彦
都市計画グループリーダー	島口靖
防災防犯グループリーダー	神谷義直
上下水道グループリーダー	清水洋己
学校経営グループリーダー	岡島正明
学校経営グループ主幹	鈴木剛

職務のため出席した議会事務局職員

議会事務局長	大岡英城
副主幹	神谷直子
主査	杉浦幸宏

議事の経過

○議長（杉浦辰夫） 皆さん、おはようございます。

本日も円滑なる議事の進行に御協力のほどお願い申し上げます。

午前10時00分開議

○議長（杉浦辰夫） ただいまの出席議員は全員であります。よって、これより会議を開きます。

お諮りいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付してあります日程表のとおり決定して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦辰夫） 御異議なしと認めます。よって、本日の議事日程は、お手元に配付してあります日程表のとおり決定いたしました。

これより本日の日程に入ります。

○議長（杉浦辰夫） 日程第1 一般質問を行います。

3番、杉浦康憲議員。一つ、令和3年度予算編成に向けた市政クラブの政策提言について～第6次高浜市総合計画アクションプランについて～。一つ、投票率の向上について。以上、2問についての質問を許します。

3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） 皆さん、おはようございます。

それでは、昨日に引き続き、令和3年度予算編成に向けての市政クラブ政策提言について、クラブを代表して質問をさせていただきます。

実は、この12月定例会から議員のほうにもタブレットのほうを支給されましたので、私たち、提言するという立場もありますから、本日はタブレットを使っての一般質問に挑戦したいと思います。

では、始めます。

目標7、みんなでまちをきれいにしますについてお聞きします。

最初に、昨年11月に衣浦クリーンセンターの火災が発生し、高浜、碧南両市からごみ焼却に混乱が生じたことはまだ記憶が新しく、ごみは回収されなければ家の中に増えてしまいます。ごみを減らすことの重要性を再認識しました。使用済みのものをごみにするのではなく、分別して再資源化、5Rすることが重要と考えますので、改めてこれらの促進と意識向上について、取組をお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 市民部長。

○市民部長（磯村和志） 本市では、「まぜればごみ、分ければ資源」といった考え方のもと、ごみの減量とリサイクルを推進するため、平成7年10月から資源ごみの分別収集を開始いたしました。市民の皆さんに分別収集拠点に立っていただくことにより、分別の方法を学習していただくとともに、地域コミュニティーの醸成や不法投棄の防止にもつながってまいりました。

今後も、ごみと資源を分別することで資源は再利用され、その結果としてごみの量が減ることをしっかりと周知してまいりますので、よろしく願いをいたします。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

続きまして、ごみの減量を目的に、昨年度、可燃ごみ用指定収集袋が有料になりました。導入から1年がたちましたが、可燃ごみ袋有料化の検証はどの程度行われているのか、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 経済環境グループ。

○経済環境G主幹（東條光穂） 昨年7月から、家庭系ごみの減量化に向け、可燃ごみ用指定収集袋を有料といたしました。その後、家庭からステーションに搬出されるごみは一旦減少傾向にありましたが、クリーンセンター衣浦の火災事故に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から外出の自粛が浸透し、結果としてごみの量が増大することとなりました。碧南市を初め、近隣各市におきましても同様にごみの量は増大していると伺っています

今後は、新型コロナウイルスの収束を待ってごみ袋有料化の検証を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。コロナ禍ということで、なかなか見通せないと思いますが、ぜひとも検証のほうをお願いしたいと思います。

そして、またごみということに関して言えば、市民部さんには多分一番毎回毎回こういったことで要望等、私たち議員のほうにも要望がたくさん来ます。ごみの収集方法についてもしっかりと検証していただきたいと思います。お願いします。

次に、目標8についてお聞きします。

本市の用途地域における都市計画決定図書によると、土地利用の促進を図る市街化区域内の用途地域の指定状況としては、住居用用途地域が約43%、商業用用途地域が約3%、工業系用途地域が約54%となっております。そのうち工業系用途地域に位置づけられる準工業地域は、全ての用途地域のうち約32%と最も多く、市街化区域のおよそ3分の1を占めています。一般的に、準工業地域は、工場と住居のいずれも建築可能な用途地域であることから、住環境や工業の操業環境双方への配慮のために、住居系、もしくは工業系のいずれかの用途により進めていくのが望ましいとされています。

そこで、これらの課題解決、また用途地域の見直し方針についてお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 都市計画グループ。

○都市計画G（島口 靖） お答えいたします。

ただいま議員の御質問のとおり、本市の用途地域の特徴といたしましては、住居や工場が混在する準工業地域の割合が多いことが挙げられます。

近年、この準工業地域につきましては、住宅地への転換が進んでいることが見受けられ、この状況を踏まえ、現在策定作業を進めております都市計画マスタープランの次期計画では、現行の

準工業地域の大部分を住居系に位置づけることとしております。

また、住環境の向上及び居住誘導を図るといった点では、準工業地域内の既存工場等につきましては、産業系新市街地に位置づけられたエリアへの集約などにより、既存工場の操業環境の向上及び立地誘導による住工混在の解消を図ることにつなげてまいりたいと考えております。

今後、この都市計画マスタープランの方針や地元の機運の高まりに応じ、用途地域の見直しも検討してまいりたいと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。ぜひとも現状に合った、市民が暮らしやすい見直しをお願いしたいと思います。

次に、都市計画においては、用途地域のほか都市計画施設の整備も重要な施策であります。

本市の都市計画道路は、市決定の都市計画道路の整備率が約91%であるのに対し、県決定の都市計画道路の整備率は約63%と、県道の未整備区間がある一方、衣浦大橋の周辺など愛知県による各種渋滞対策事業が大きく進捗している区間もあります。

そこで、今後の都市計画道路の整備方針や衣浦大橋の今後の事業進捗についてお聞きします。

○議長（杉浦辰夫） 都市政策部長。

○都市政策部長（杉浦義人） まず、今後の都市計画道路の整備方針でございます。

都市計画道路のような幹線道路の整備は産業の活性化につながるものであり、本市の都市計画道路の未整備の区間については、現在策定を進めております都市計画マスタープランにおいてその整備の方向性を検討し、位置づけてまいりたいと考えております。

次に、衣浦大橋の今後の事業進捗でございますが、現在は、渋滞対策事業として衣浦大橋の西向き左折専用橋梁の整備を行っております。この橋梁の下部工については、これまでに7基のうち6基が完成し、残る1基の橋台工事を進めております。上部工事についても、昨年度から製作架設工事に着手し、現在、工場にて橋桁の製作を行っており、来年度には現地での架設工事を始める予定と聞いております。

また、衣浦大橋の東向きのトラス橋は60年以上前の基準で造られており、大型車両が並んで通行できない状況になっていることから、架け替えが必要と考えております。この衣浦大橋の整備促進を図るため、本市を含む西三河と知多地域の15市町を会員とする衣浦大橋整備促進期成同盟会が平成29年2月に発足し、令和元年度及び今年度は、本市市長が同盟会の会長職を担い、これまで国及び県に対して要望活動を実施してまいりました。

その活動の成果として、左折専用橋の進捗が大いに図られ、また、本年度には、愛知県においてトラス橋の架け替えに向けた橋梁の予備設計、施工計画の検討に着手いただくなど、衣浦大橋に関する各種事業が大きく進捗しているところでございます。

今後も衣浦大橋整備促進に向け、引き続き国及び県に働きかけてまいりたいと思いますので、

よろしく願いをいたします。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。この整備には多くの期待があると思いますので、確実な進行をお願いいたします。

では、続きまして、目標9のまずは防災対策についてお伺いします。

災害はいつ発生するか分かりません。このコロナ禍であっても、工夫しながら各種の取組を推進していくことが必須です。

高浜市では、地域防災力を推進するために、地域防災リーダー養成講座、外国人向け防災学習会、避難所検討会など実施されていると思いますが、本年度の実施状況と令和3年度に予定している新規事業がありましたらお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 防災防犯グループ。

○防災防犯G（神谷義直） 最初に、地域防災リーダー養成講座でございますが、募集人数を例年の半数としまして、本年10月と11月に実施をしております。町内会の防災部長様を中心に御参加をいただいております。

続きまして、外国人向けの防災学習会でございますが、新型コロナウイルスの動向に注視をしつつ、今後の実施に向け関係者と調整を進めてまいりたいというふうに考えております。

最後に、避難所の検討会でございます。

本年度は、高浜小学校及びたかびあ等を対象に、来年の1月より実施していく予定でございます。1団体当たりの参加人数を最小限とするなど、感染症対策に配慮して進めてまいりたいというふうに考えております。

なお、令和3年度でございますが、これらの取組を継続して推進するとともに、感染症対策を初めとします災害用資機材の整備などにも計画的に進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。避難所検討会では、災害を想定し、より実践に即して取り組んでいただきたいと思います。

次に、防犯交通安全対策についてお伺いします。

交通安全対策として、本年度、高齢ドライバーへの後付安全運転支援装置の設置費補助を実施されています。また、この制度は、本年度1年間の実施を基本とし、期間延長については、愛知県からの補助金や近隣市の状況を踏まえた上で判断されると認識しております。

これまでの申請状況と令和3年度の実施予定について、決まっているのであれば教えてください。また、令和3年度に予定している新たな事業がありましたら、併せて教えてください。

○議長（杉浦辰夫） 都市政策部長。

○都市政策部長（杉浦義人） お答えいたします。

まず、後付安全運転支援装置設置費補助金の申請件数でございます。

11月末現在で25件でございます。

なお、次年度の実施予定につきましては、御質問にもございましたとおり、県や近隣市の動向を踏まえて対応する予定でございます。

また、令和3年度に予定している新たな事業でございますが、現在、県において自転車用ヘルメット購入費に対する市町村への補助金交付に向けた準備が進められております。

本市においても、この制度を活用しながら、自転車運転者への交通安全対策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。ヘルメットの着用率を高めることで、死亡事故や重傷事故の減少につながることを期待できると思いますが、それだけではなく、併せて自転車の運転マナーの推進にも取り組んでいただければと思います。

関係機関や近隣自治体と連携を図りながら、引き続き多方面からの交通安全対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

次に移ります。

目標10、一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めますについてお伺いしたいと思います。

新型コロナウイルスは、高齢者がかかると重症化しやすいことが指摘されています。最近では、高齢者の方が外出を控え、自宅で過ごすことが多くなっているそうです。

一方、過度な外出の自粛は、健康増進と認知症予防の観点からはマイナス要因となります。コロナ禍の中で高齢者の健康支援のために市としてどのようなことに取り組んでいるのか、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 高齢者の方に少しでも運動不足を解消していただくために、保健師が中心となり、6月1日号広報では家で気軽にできるストレッチや筋力トレーニングの特集を、9月1日号では認知症を自分のこととして考える特集を掲載し、外出自粛により運動不足や認知機能低下に陥ることのないように情報発信に努めております。

また、広報と一緒に配布します「でいでーる」では、高齢者が地域へ出かけたくなるように特集を組み、健康自生地紹介を行っております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。現在、コロナ禍ではありますが、健康増進、そし

て認知症予防は待ってくれません。

では、来年度に向けて新たにに取り組む事業がありましたらお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 来年度から、国立長寿医療研究センターと連携し、新たな認知症予防に関する研究事業を実施させていただきます。新たな取組では、個人ごとの活動からより多くのデータが取れるよう、スマートフォンを活用したプログラムとなっております。

今後は、国立長寿医療研究センターと調整を重ね、事業を円滑に実施できるよう準備を進めてまいります。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

では、次に、目標11、一人ひとりの元気と健康づくりを応援しますについてお伺いしたいと思います。

住み慣れた自宅でいつまでも安心して暮らし続けることは、市民の誰もが願うことであり、それを支えるには、医療と介護の連携が重要であると考えますが、現在の取組状況についてお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 福祉まるごと相談グループ。

○福祉まるごと相談G（野口真樹） 疾病を持ちながら自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるよう、地域における医療機関や介護関係機関が連携し、多職種協働により医療と介護を一体的に提供できる体制として、本市では、平成30年1月よりICTを活用した「えんじょネット高浜」の運用を開始しております。運用開始に伴いまして、「えんじょネット高浜」を利用していただく医療機関や介護関係機関への個別訪問を実施し、連携システムへの参加を依頼するとともに、活用のための研修会や事例検討会を開催することで、多くの機関に御登録いただいております。

現在、本年9月末現在97名の患者さんに対し134名の医療・介護関係者が「えんじょネット高浜」を通じて情報共有を行っており、誰もが安心して自宅で療養できる環境整備は着実に進んでおります。

加えて、本年度内には、市内の医療機関だけでなく、愛知県内全ての医療機関が「えんじょネット高浜」を利用できるよう、愛知県医師会も担い手となりまして準備を進めております。幅広く支援の輪が広がっております。

今後も、在宅療養を選択された方を医療と介護の連携でしっかり支える取組を継続してまいります。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。ぜひとも安心して暮らせるように、医療と介護

の連携というものを支えていただければと思います。

昨日から4人にわたり市政クラブからの政策提言について質問をさせていただきました。ぜひとも来年度予算に反映していただき、よりよい市民生活につなげていただくことを要望いたします。

では、続きまして、私自身の質問に移ります。

投票率の向上についてです。

地方自治において最も重要である選挙において、残念ながら、全国的に投票率の低下に悩まされています。高浜市においても、市長選では平成17年は56.11%、平成21年は、衆議院選挙と同日でしたので72.93%、平成25年は無投票、平成29年は51.09%、市議選では、平成19年は62.8%、平成23年は58.98%、平成27年は56.27%、平成31年は52.84%と、4回の選挙で約10%の低下となっております。

原因を考えると、複合的だとは考えますが、投票率の向上に向けて単独の自治体としてまずできることは、投票のしやすさだと考えます。

では、初めに、期日前投票の投票率がどのように推移しているのか、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） お答えいたします。

期日前投票制度は、平成15年12月に制度が創設をされております。制度創設以後に行われました高浜市議会議員一般選挙における期日前投票者数の割合ということでお答えをさせていただきます。

まず、平成19年が8.56%、平成23年が12.09%、平成27年が13.91%、平成31年が14.92%となっております。

全体の投票率は減少傾向にございますけれども、期日前投票については、制度が浸透いたしますとともに、期日前投票ができる事由も緩和されるなど、増加する傾向にございます。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。そうなんですね。期日前投票では、この4回の市議選において約6%投票率は上昇しています。それは、つまり期日前投票が効果を上げていることと理解します。

その上でお聞きします。

さらなる投票率の向上に向けて、移動期日前投票所、共通投票所の設置、期日前投票所の増設などが考えられますが、これらの制度についてどのような認識か、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） 初めに、移動期日前投票所及び共通投票所について申し上げます。

これらの制度は、平成28年7月の参議院議員通常選挙から導入をされております。移動期日前投票所とは、ワンボックスタイプの自動車などを利用して、あらかじめ告示をした場所に移動し、一定の時間、期日前投票所を開設するものでございます。投票所までの距離があつて移動手段の確保が難しい有権者の方々などに投票の機会を提供するというところでございまして、投票率の向上にもつながるものと考えております。

次に、共通投票所とは、選挙の当日に指定された投票所——高浜市では11投票所ございますけれども——それとは別に投票できる共通投票所といわれるものを設置するものでございます。例えば、ショッピングセンターなど人が集まる場所に共通投票所を設置し、そうすることで、有権者の方の利便性を高め、投票率の向上につなげるものでございます。

最後に、期日前投票所の増設についてお答えをいたします。

この制度も、期日前投票ができる場所を増やすことで利便性を高め、投票率の向上につなげていくというものでございます。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

では、高浜市として移動期日前投票所や共通投票所の設置、あるいは期日前投票所の増設についてどのように考えているのか、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） 順次申し上げます。

初めに、移動期日前投票所につきましては、無線技術を活用するなどの必要がございます。

次に、共通投票所の設置や期日前投票所の増設は、投票施設に通信回線を敷設するなどインフラ面での対策とセキュリティ面での対策で、費用もかかってまいります。こうしたことから、技術面、費用面の問題などもあり、なかなか普及は進んでいないようでございます。

特に、移動期日前投票所や共通投票所は、山間部の市町村や、市町村合併で投票所が統合された市など、比較的市域が広いところで導入されているようでございます。

一方で、本市の場合でございますけれども、市域もコンパクトでございます。期日前投票所が設置をされております市役所も、市域のほぼ中央にございます。市内11か所の投票所も、御自宅からの距離も比較的近く、移動しやすい距離にあるものと考えております。

こうした本市の地理的な特性や導入に必要となります技術面、費用面の問題を考えますと、現在のところ、本市において移動期日前投票所や共通投票所を導入する考えはございませんけれども、投票しやすい環境づくりの面からも、引き続き制度の動向を注視し、研究もしてまいりたいと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。確かに地域性、技術、コスト等に課題はあるとは

と思いますが、投票のしやすさということを前向きに検討をお願いしたいと思います。

次に、投票そのものの方法について、1つ提案したいと思います。

皆さん、記号式投票を御存じでしょうか。記号式投票とは、あらかじめ候補者が書かれた投票用紙に丸印などを記す投票方法ですが、開票時間の短縮や開票費用の削減、あるいは疑問票や無効票を少なくできるというメリットがあると聞いています。

そこで、まず、開票における無効票についてお聞きします。

開票結果の数字を見ると無効投票がありますが、無効票の内訳をお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） 直近の平成31年執行の高浜市議会議員一般選挙について申し上げます。

投票総数は1万9,039票でございました。うち無効投票は381票で、無効投票率は2%でございました。内訳といたしまして、最も多かったのが白票、白紙投票で226票、次いで多かったのが候補者でない者や雑事、記号などを記載した投票で135票、その他候補者の誰を記載したか確認できない投票などが20票でございました。

平成29年執行の高浜市長選挙におきましても同様に、最も多いのが白票、白紙投票で145票、次いで候補者でないものや、2名以上の候補者、候補者名のほか他事、雑事、記号などを記載した投票が75票、その他候補者の誰を記載したか確認できない投票が7票となっております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

私も以前、選挙の開票の立会人をしたことがあります。やはりそういった、白票というものは、確かにそういった意思表示かもしれませんが、全く違うことを書かれている方も見えました。そういったことがなくなる一つの手段なのかなとは思っています。

無効票の数についてはお聞きしましたが、現行の自書式投票に比べ、記号式投票は選挙人の意思を反映しやすく、無効票を少なくでき、併せて開票時間の効率化にも役立つのではないかと考えますが、記号式投票をどのように認識しているのか、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） 記号式投票の制度の概要につきまして申し上げます。

記号式投票といいますのは、投票用紙にあらかじめ候補者の氏名が印刷された候補者のうちから投票したい候補者に丸の記号を記載して投票する方法をいいます。地方公共団体の議会の議員、または長の選挙におきましては、条例で定めることにより行うことができることとされている投票方法でございます。

愛知県内で申し上げますと、38団体中1団体が長の選挙で記号式投票を実施しておられるようです。候補者名以外の氏名や、候補者の誰を記載したかの確認ができない、こうした無効票の減

少や、疑問票も少なくなることで、開票時間の短縮につながる効果があるものと言われております。

ただ、無効票の内訳を見てみますと、先ほども申し上げましたように、最も多いのが白票、白紙投票で全体の5割から6割、次いで多いのが候補者でない者や雑事、記号などを記載した投票で、全体の3割から約4割といった状況でございます。白紙投票も一つの意思表示であることを考えますと、記号式投票であっても、一定の無効は発現するものとは考えております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。私は、記号式投票を導入することは、投票のしやすさの向上とともに、投票方法が変わることで、市民にとって選挙や投票に対する関心を持ってもらい、投票率の向上につなげるよい機会であると思います。

では、高浜市として、導入の考え方についてお聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） ただいま御質問にございましたこうした制度について関心を持っていただく、あるいは、先ほど御質問の中でメリット、ございました。

ただ、記号式投票にも課題がないわけではございません。投票用紙について申し上げますと、期日前投票や指定病院等での不在者投票、これは、制度上、これまでと同じ自書式の投票が用いられます。投票用紙に候補者の氏名を直接記載するという自書式投票が用いられます。

一方で、記号式投票を取り入れますと、選挙当日の投票は記号式投票用紙で御投票いただくということになります。この場合、市議会議員一般選挙のように候補者が多い場合は、投票用紙に印刷する氏名が小さくなって見にくくなるといった心配もございます。

開票におきまして、次に申し上げますと、平成31年の市議会議員一般選挙を100票単位で申し上げます。投票総数が1万9,000票のうち、28%に当たる5,400票が自書式の投票用紙になります。記号式投票を取り入れても、期日前投票は自書式になりますので、これに置き換えると、5,400票、28%は自書式の投票用紙が用いられると想定されるということです。記号式と自書式の2種類の投票用紙につきまして、それぞれ別々に有効無効を判定する必要もございます。

こうした課題もございますことから、現在のところ、直ちに記号式投票を導入する考えはございませんけれども、有権者の意思を反映させやすい方法といたしまして、他市の状況も参考にしながら研究を行ってまいりたいと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

やはり新しいことというか、いろいろな課題があるということは理解できます。ぜひとも投票のしやすさという面から今後も検討をいただければとお願いいたします。

次に、昨今、新型コロナウイルス感染症によって第3波もささやかれているところであります。

これは、選挙の投票においても、選挙人の足が遠のく大きな原因の一つであると考えられます。来年は市長選挙や衆議院議員選挙が予定されていると思いますが、選挙においても新型コロナ対策をしっかり行い、安心して投票できる環境を整えることも、投票率を低下させない方法だと思います。

そこで、有権者の不安を取り除く対策としてどのようなことを考えているのか、お聞かせください。

○議長（杉浦辰夫） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（内田 徹） 安心して投票していただけますように、保健所の助言も頂きながら、投票所での感染蔓延防止に取り組んだ上で選挙を実施してまいりたいと考えております。

これは正式な決定事項ではございませんが、考え方を申し上げます。

1つ目といたしまして、来場者へのマスクの着用と手指消毒のお願い、事務従事者への同様の対応を徹底してまいりたいと考えております。

2つ目といたしまして、投票所や開票所の換気によりまして、空気の滞留が生じないようにしてまいりたいと考えております。

3つ目といたしまして、記載台など不特定多数の方が触れられる箇所につきましては、定期的に消毒を実施してまいりたいと考えております。

4つ目といたしまして、使い捨ての鉛筆の使用など、ウイルスが広がらない、持ち帰らない対応も行ってまいりたいと考えております。

5つ目といたしまして、周りの方との距離、ソーシャルディスタンスを確保するために、今、混雑時など距離を置いて並んでいただくような誘導に心がけてまいりたいと考えております。

そのほか、過去の選挙の事例を基に、例えば投票所の混雑状況、どれぐらいの時間帯が混むとか、期日前投票であれば、こういった日に混雑するとか、そういったことをホームページでお知らせすることによりまして、混雑する時間帯を避けた投票のお願いもしてまいりたいと考えております。

こうしたことは、事前にホームページや案内チラシなどで積極的にお知らせをいたしまして、安心して投票できる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

衆議院議員選挙がいつあるか分かりませんが、現在、コロナ禍ということですので、今、部長がお話しされたように、保健所さん、そして、近隣ですと碧南市さんがもうコロナ禍で選挙をやっていますので、そういったことをお聞きしながら、皆さんが安心して投票できる環境づくりをお願いしたいと思います。

最後に少しだけまとめさせていただきます。

投票のしやすさということであれば、本来、一番投票しやすいことはスマホ等を使った電子投票だと思います。これらは過去にトラブル等もあり、一自治体では厳しいと思いますので、国のシステム構築を待ちたいと思います。

今回は投票率の向上に向けて投票のしやすさのみ取り上げてきましたが、これは一面的であります。一番重要なのは、候補者の政策や思いをいかに広く、そして正確に知ってもらうかだと考えます。製作ビラやICTを使った選挙が徐々に解禁されてきましたが、まだまだ不十分だと感じます。

一見少し遠く感じる選挙にもっともっと関心を持っていただき、投票率の向上に結びつき、その先に高浜市の発展があることを願い、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉浦辰夫） 暫時休憩いたします。再開は10時50分。

午前10時37分休憩

午前10時50分再開

○議長（杉浦辰夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、4番、神谷利盛議員。一つ、高浜市市制施行50周年記念事業について。以上、1問についての質問を許します。

4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） 4番議員の神谷利盛です。一般質問の最後になりますけれども、ひとつよろしく願いいたします。

議長よりお許しをいただきましたので、市制施行50周年記念事業の一端として10月1日より開始された鬼師と「鬼滅の刃」とのコラボレーション企画事業についてお伺いいたします。

9月議会においても一部お伺いしましたが、今回は、「鬼滅の刃」とのコラボレーション企画事業に絞って、招致に至った経緯、著作権元との調整、また各関係団体との協力体制などについて、一問一答方式にて質問させていただきます。

今回のコラボの相手である「鬼滅の刃」は、今や世界的なブームとなっています。もし、今のコロナ禍さえなければ、ハロウィンの際には世界中に竈門炭治郎や禰豆子があふれかえったことでしょう。ネットでは、自宅でコスプレを楽しんでいる子供や若い世代の人たちの様子がよく見られました。

12月4日の日経新聞によれば、映画の興行収入は約275億円、「タイタニック」を超える日本歴代2位となったとのことで、歴代1位も時間の問題とか言われています。

また、単行本の販売では22巻で1億冊を突破。12月4日の23巻の発売日には、多くの人が書店に並んでいるのがテレビでも放送されていました。まして、経済効果に至るや2,000億円を超え

るのだそうです。本屋さんでは、「鬼滅の刃」効果で4年ぶりに売上高の低下に歯止めがかかったとかも言われていました。私自身も映画を鑑賞し、23巻目まで単行本を読み終えましたが、確かに面白い漫画でした。

今回のコラボレーション企画事業は、鬼師と「鬼滅の刃」の鬼とが市制50周年事業とまさに奇跡のタイミングで実現されたわけですが、いつ頃から企画し、著作権元の同意や市内関係者の協力を詰めていったのかなどについて、順を追って質問させていただきます。

まず初めに、今回の企画の目的をお伺いいたします。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） まず、今回の企画の目的でございますが、3点ございます。

1点目は、市制施行50周年を迎え、最も発信力のある、本年に国の伝統的工芸品に指定をされております三州鬼瓦工芸品を製作する鬼師の技術を広くPRすることで、高浜市の魅力を全国に発信するシティープロモーションという点、2点目としましては、市外より多くの人を呼び込み、高浜市を知るきっかけを創出し、高浜市を巡り楽しんでいただくことで、高浜市のファン——交流人口ですけれども——を増やしていくこと、最後は、3点目としましては、市内に暮らす方に対して、いま一度、高浜市のよさを見つめ直していただいて、まちへの愛着、誇りを高める、シビックプライドを醸成することで、まちに関わるきっかけ、人財を創出していくということ、以上の3点を今回の企画では目的としております。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） ありがとうございます。

次に、今回の企画ですが、どのような経緯でいつ頃から検討を始めたのか、お伺いします。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 今回の企画のそもそもの始まりですが、2018年6月14日になりますが、鬼師さんを対象にふるさと納税の新規謝礼品の創出に向けた検討会を開催した折に、鬼師さんより、アニメキャラクターなどとのコラボレーションはできないかなといったアイデアが提案されてまいりました。それを受けて、行政側から企画書を作成して、アニメ制作会社に直接提案したりしておりましたが、その都度断られたりを繰り返しておりました。

2019年の夏頃に、今から1年半ぐらい前になりますが、ふるさと納税のPRについて事業者さんと打合せをしている中で、アニメキャラクターとのコラボレーションの可能性について、アニメ作品とつなげることが可能であるというお話をいただきました。そこで、高浜市とつながるキーワードを持つアニメは何があるかなというようなことを行政内部で検討した際に、当時はやや人気が出始めているという程度でありましたが、現在のような爆発的な人気とまでは至っていなかった「鬼滅の刃」の鬼と鬼瓦職人の鬼師の鬼というキーワードでのコラボレーションを行政から業界に提案させていただいて、業界からぜひ実施をしたいという声をいただきましたので、企

画の立案を開始したということが経緯となります。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） 分かりました。

では、次に、冒頭でも申し上げましたが、作品の人气がまさに絶頂、映画公開もされているまさにこのタイミングでのコラボレーション企画が実現できたわけですが、開始時期というのはいかなるような経緯で決定してきたのか、お伺いいたします。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 企画の開始のタイミングという点についてでございますが、予算の関係もありまして、コラボレーションの期間というのが当初より3カ月間ということで予定をしていました。どのタイミングで実施することが最も鬼師さんの技術や鬼瓦の魅力を発信できるのか、また市制施行50周年ということ盛り上げて高浜市を発信していけるのかということを検討いたしてまいりました。その結果としまして、企画当初は毎年度10月に開催を予定しております鬼みちまつりに合わせて、そして市制施行50周年の記念日となります12月1日にかかる期間ということで、今年の10月初めから12月の末ぐらいでのコラボを想定しておりました。

ただ、しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、鬼みちまつりの中止が決定され、開始時期を再度検討していく中で、新型コロナウイルス感染症の第2波の状況も考慮し、状況が少し落ち着いて、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける地域の飲食店などの商店の活性化、地域振興につながる最も効果的な時期を検討する際に、映画公開の時期に合わせていくことが最も効果的であるのかなというように判断をいたしました。ただ、公開と同時に、または近すぎると、映画の話題のほうに負けて薄れてしまうために、映画公開の1月前にコラボレーション実施の発表、映画が公開された2週間後からのコラボ開始ということで検討・調整し、また、そういった同時期であれば、12月1日の市制施行記念日に向けての機運も高めていけるのではないかとこのところ決定をいたしました。

今後、新型コロナウイルス感染症の状況については十分に配慮しながら進めてまいりたいと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） どうもありがとうございます。

それでは、次に、今回の企画の具体的な取組内容についてお伺いいたします

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 今回の企画について、具体的な取組といたしましては4点ございます。

1点目は瓦モニュメントの制作・展示でございます。

今回の企画のシンボリックな取組といたしまして、鬼師の技術により精巧に作り上げられた、

「鬼滅の刃」のキャラクターを再現した瓦モニュメントを多くの方に見ていただくことで、鬼師、鬼瓦といった伝統技術のPRにつながると考え、実施をしております。

2点目は、「鬼滅の刃」とのコラボ瓦制作の体験ワークショップでございます。

鬼師の技術や鬼瓦づくりを実際に体験していただくことで、訪れる方に鬼瓦をより身近に感じていただくことができ、また鬼師の皆様にも参加者の反応が直接伝わると考え、実施をしております。

3点目は、「鬼滅の刃」とのコラボ瓦グッズの販売でございます。

やはりファンとしましては記念となるグッズを購入したい、期間限定のオリジナルグッズとなればなおさらでございます。そうした訪れる側の視点と、鬼師さんたち側としては、瓦モニュメントという一律のキャンバスでの表現のみではなく、鬼師さんたちの個性を存分に生かした技術の発信の機会として、それぞれが独自のコラボ瓦グッズを制作できる機会というのは重要であると考えました。また、こうした瓦グッズを購入された方々が、それぞれのSNSなどで発信をいただくことで、より鬼師、鬼瓦、高浜市の発信につながってくるのかなと考え、実施をしております。

最後、4点目としましては、デジタルスタンプラリーでございます。

こちらにつきましては、単に瓦モニュメントを見ていただく、グッズを買っていただくだけでなく、せっかく高浜市に訪れていただくので、高浜市内の回遊を通して地域のスポットを巡り、鬼瓦以外のまちの魅力も発見していただいて、また、飲食店など商店でも買い物をしていただけたら地域経済の活性化にもつながるのではないかとということで実施をしております。

以上の4点が今回の企画の具体的な取組内容でございます。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） どうもありがとうございます。

それでは、次に、この4つの取組について、現時点の状況で結構ですので、教えてください。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） まず、1点目の瓦モニュメントでございますが、これまでにどれくらいの方が見に来ていただいているのかということまではちょっと計測をしておりますが、土曜日、日曜日などの休日には、まだまだ多くの方が入れ代わり立ち代わりで見学に訪れていただいております。

2点目の瓦制作の体験ワークショップでは、今回、4つの事業所様に御協力をいただいて、ただ、コロナ禍ではございますので、人数制限の設定をしつつ募集をしております。11月については、定員大体150人程度に対して約430件のお申込みを頂きました。12月については、それが7,500件ぐらいの申込みということで、急に増えた形となっております。それは、各メディアで取り上げていただき、非常に多くの方々からお申込みを頂きましたが、ただ、その全ての御希望

に対応することがちょっと難しい状況ではございますが、参加いただいた方に実際お聞きしたりすると、皆、大変に満足をされているというような声を聞いております。

3点目のコラボグッズの販売についてですが、かわら美術館、観光案内所及び三州瓦工業協同組合のオンラインショップでの取扱いとなっておりますが、主には、かわら美術館および観光案内所の販売点数、どれぐらいの点数のグッズが売れたかということですが、12月6日時点——企画開始から38日間ですが——で約3,600点のグッズが販売、購入をいただいているというような状況でございます。金額にすると、大体1,000万円程度の金額となっております。

最後に、デジタルスタンプラリーでございますが、統計がちょっと前になりますが、11月23日時点——企画開始から25日間目ですが——約4,200人が参加をいただいているというような状況でございます。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） どうもありがとうございます。

それでは、次に、この4つの取組について、それぞれの成果目標があればお伺いしたいと思います。また、その達成の見込みについてもお伺いしたいと思います。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 今回の企画の成果目標でございますが、3つの成果指標を設定しております。1つ目は本事業への参加者数——スタンプラリーなどですが——参加者数が5,000名といったシティープロモーション要素の強い成果目標を設定しております。2つ目は、市制施行50周年記念事業の実践メンバー100名、3つ目は総合計画検討市民会議への移行者数10名としており、2つ目、3つ目の成果目標については、本取組を通じて今後の高浜市のまちづくり人材の発掘につなげていきたいという部分を狙った成果目標としております。

目標の達成見込みでございますが、1つ目の参加者数5,000名については、先ほどの答弁でもお話をさせていただきましたが、11月23日時点で約4,200の方がスタンプラリーに参加をいただいております、残期間としてまだ2か月程度残っておりますので、こちらは十分達成できるのかなという見込みでございます。

2つ目の市制施行50周年記念事業の実践メンバー100名及び総合計画の検討の際の市民会議への移行者数10名でございますが、こちらについては、本取組をきっかけに市民の皆様が自分のまちに関心を持ち、自分のまちのまちづくりに参加してもいいなと思っていただいて、まちづくりの仲間になっていただくという部分を狙ったところでございますが、50周年事業や総合計画の策定など、新型コロナウイルス感染症の影響で当初予定していたような人材募集ができておりませんので、現時点では目標達成はまだ厳しいというような状況でございますが、コラボレーション期間、まだまだございますので、引き続きそうしたまちづくりの仲間を増やしていけるように働きかけていきたいと考えてございます。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） ありがとうございます。

次に、第3波とも言われるように、新型コロナウイルス感染症の感染者数が全国的に増えていきます。今回の取組は、そんなコロナ禍での開催となっており、企画の準備及び実施の判断をするに当たり、どのような対策を講じて行ったかをお伺いします。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 本取組については、議員言われるように、コロナ禍での開催となっております。その中、市外や県外からも多くの方が高浜市を訪れるということから、企画の実施自体についても、実際、判断を迷いました。

当初の企画では、モニュメントの設置はかわら美術館の館内のほうがセキュリティーの面からもよいのではという案もございましたが、屋内であまり人が来てしまうと密ができてしまうのではないかということから、屋外で監視の目もあり、雨がしのげる場所ということで、市役所本庁舎前への設置といたしました。

また、スタンプラリーについても、当初はスタンプポイントを回って、台紙などにスタンプを押していただいて回っていただくということを想定しておりましたが、スタンプポイントに人が並んでしまう、またスタンプを複数の方が触れるということがあることから、デジタルスタンプラリーへと変更するなどいたしております。

また、体験ワークショップについても、密にならないように人数制限をするなど、最大限の感染予防に配慮をしております。加えて、実施に際しては愛知県の防災危機管理課にも相談をさせていただいて、企画の実施に至っております。

ただ、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期間途中でも中止するというのも考えてございますので、引き続き状況を注視してまいりたいと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） どうもありがとうございます。

次に、多くのメディアで取り上げられていますが、一体何件ぐらいのメディアに取り上げられたのか、把握している範囲で結構ですので教えてください。また、「鬼滅の刃」はほかにも多くのコラボレーションがありますが、今回の鬼師とのコラボレーションがなぜこれほどの反響があったと分析されているのかも、併せてお伺いいたします。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 今回の取組については、議員言われるように、非常に多くのメディアに取り上げていただいております。

具体的には、11月23日の時点でございますが、テレビ番組ではフジテレビさんの「バイキング」や日本テレビの「バンキシャ」を初め21の番組で取り上げていただきました。新聞掲載では26件、

ラジオ番組では6番組、インターネット系のメディアでは約180件程度取り上げていただいて、加えて、雑誌では、今後になりますが、「Chao」さんや「東海じゃらん」などでも取り上げていただくような予定がございます。

今回のコラボ企画を仲介いただいております広告代理店さんからは、今回のそういったメディアの取り上げられたところ、広告換算をすると、試算としてですが、1億円以上の宣伝広告を行ったくらいの効果がありますよというような試算をいただいております。

また、数多く展開されているほかのコラボ企画と比べても、鬼師とのコラボ企画は非常に多くメディアに取り上げていただいております、著作権元も注目をしてくれているとお聞きしております。

では、なぜ鬼師とのコラボがこれほどまでに反響があったのかという部分の分析でございますが、今回のコラボ企画の紹介でも多くうたわれているように、異色のコラボという点が大きな反響をいただいた要因であると考えております。各種の飲食物や文具といったグッズとは一線を画す鬼瓦といった題材、国が指定する伝統的工芸品を作る職人集団とのコラボというところが大きかったのかなと考えてございます。

ファンや消費者により意味で違和感を与え、興味、関心を引くことができたのかなと考えてございます。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） ありがとうございます。

次に、今回のコラボ実施に当たり苦勞した点があれば教えてください。また、その解決に向けてどのような工夫をしたのかも伺いたしたいと思います。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 今回のコラボ企画実施に当たり苦勞した点につきましては、やはり各種調整に非常に多くの時間と労力を割いたという部分でございます。

今回のコラボでは鬼師さんが所属する三州瓦工業協同組合、作品やキャラクターの使用に関する権利を有する著作権元を初め多くの方々との調整が必要となり、瓦製品を初めとした各種グッズの制作や販売場所、SNSでの発信内容や広報等への掲載内容、取組を取材していただく際の取材の趣旨や内容に至るまで、全て今回は著作権元に監修、許可をいただくという必要がございました。ただ、各主体がそれぞれ希望を言われますので、担当職員が著作権元との間に入って、どうやったら希望がかなえられるのかなと、そういった部分で希望がかなえられる部分とそうでない部分を説得だったり説明をすることが大変であったのかなと考えております。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） 本当にどうも御苦勞さまでございます。

次に、今回のコラボレーションについて、もっとこんな仕掛けをしておけばよかったというよ

うな課題や反省点があればお伺いしたいと思います。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 今回のコラボ企画につきましては、総合政策グループのみで各関係団体との調整を初めとした準備を進めてまいりましたが、企画開始に当たって、初日であったりとか、その交通誘導、混むんじゃないかというところで、交通誘導などについては、職員プロジェクトメンバーの協力をいただきました。また、土木グループさんからは、スタンプラリーポイント付近で路上駐車等が発生しないよう対策が必要なんじゃないかというようなアドバイスもいただきました。また、各グループにおいては、お客様からの問合せにお答えいただくといったような形で、本当に今回の企画、各グループや職員の協力をいただき、特段の混乱等なく開始をすることができております。

一方で、今回の企画では、市内外から多くの方が高浜市を訪れるチャンスであり、訪れた方が市内の飲食店を使っていただくなど市内を回遊いただく仕組みについては、事前にもっと体制を構築できたのではないかなというのも、正直、感じてございます。

また、今回のコラボ企画につきましては、当初はコラボグッズをふるさと納税の返礼品としてラインナップできたらということをご想定しておりました。そうしたことで、そうなるように著作権元と契約内容等について調整をしましてまいりましたが、なかなかふるさと納税につなげるというようなことは難しいというような状況がございます。よろしく願いいたします。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） 分かりました。

次に、来年度以降の展開について、コラボ実施の継続等は何か考えられておるのか、お伺いします。

○議長（杉浦辰夫） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 来年度以降の展開ということですが、来年度以降につきましては、現時点では、今回の「鬼滅の刃」とのコラボ企画の継続については考えてございません。理由としましては、新型コロナウイルス感染症の影響下でなかなか財政状況厳しい折、令和3年度では、なかなかそういった部分でなかなか版權を使用するにもお金がかかりますので、なかなか難しいのかなと考えております。

ただ、今回の「鬼滅の刃」と鬼師さんのコラボによって、鬼師・鬼瓦の可能性を世間に十分PRできたのではないかなと考えてございます。今回のコラボをきっかけに鬼師さんが様々な分野と連携することで、より輝くという可能性を示すことができたと思います。

今後は、今回の取組を弾みにしていただき、鬼師さんたちが伝統的工芸品である鬼瓦・装飾瓦の生産地として活性化が図られるなどの企画に対し、行政としては支援していけたらと考えてございます。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） どうもありがとうございます。

それでは、最後の質問になりますが、今回の取組の成否について、まだ期間が3分の1ほど経過したところですが、当局としてはどのように評価しているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉浦辰夫） 企画部長。

○企画部長（深谷直弘） 成否についてという御質問をいただきました。

冒頭、グループリーダーのほうから答弁申し上げておりますが、今回の企画の目的というのは、世界にも誇れるこの鬼師の技術を広くPRし、高浜市の魅力を全国に発信するシティープロモーション、また、高浜市のファン、いわゆる交流人口を増加させる、市民のシビックプライドを醸成し、まちに関わるきっかけ・人財を創出していくという3つの目的がございます。

現在、期間の途中ではございますが、鬼師の技術を広くPRし、高浜市の魅力を全国に発信するシティープロモーション、高浜市のファン（交流人口）の増加というこの点につきましては、これまでに鬼師・鬼瓦、そして高浜市というまちが連日各メディアに取り上げられ全国に発信されたことは、今までこういった記憶はございません。高浜市を全国に発信し、交流人口を増加させるという点では、かなり高い評価ができると思っております。

一方で、市民のシビックプライドを醸成し、まちづくりの人材の発掘へとつなげていくというこういう点では、高浜市民が自分たちのまちに興味や関心を持っていただいて、そういったきっかけづくりに十分だったと感じてはおりますが、まちづくりの人材の発掘までにはまだ至っていないというふうに感じております。

引き続き、将来の高浜市を私たち行政と一緒に考えて実践いただける、そういった人材の発掘につながるよう取組を進めてまいりたいと思っております。

○議長（杉浦辰夫） 4番、神谷利盛議員。

○4番（神谷利盛） 今回の取組は高浜市にとって恐らく初めてのことであり、大変御苦労されたことだろうと思います。深く敬意を表すものでございますが、今後のことも見据え、3点お願いをしておきます。

まず1点目、多くの関係者を巻き込んで企画を推進させた手法について、今後の市政運営についてもぜひとも活用いただきたいと思います。

2点目として、高浜市を全国に向けて発信できたわけなので、特に若い方々が中心となって、2の矢、3の矢を放っていただけるような企画の立案を期待いたします。

最後に、数字による到達目標をしっかりと作成し、行事の完了後にきちんと数値的な評価ができるようにしていただきたいと思います。

以上をもって質問を終わりますが、どうも長く御苦労さまでございました。終わります。

○議長（杉浦辰夫） 以上で、通告による質問は終了いたしました。

これより関連質問を許します。質問は1人1問、5分以内といたします。

なお、関連質問ですので、簡潔にお願いいたします。

8番、黒川美克議員。

○8番（黒川美克） 昨日の倉田議員の一般質問でお願いいたします。

昨日の倉田議員の質問で、市内の公園において小・中・高生が思い切り球技ができる場所が高浜市にはないことがよく分かりました。また、1月より利用が始まるたかびあのサブアリーナは、高浜体育センターのときと同じように、貸切り利用がないときは小・中・高生が無料で使えることも分かりました。

しかし、メインアリーナは、小・中・高生への無料開放ができないという答弁でした。メインアリーナは複合化施設という位置づけのため、小・中学校の学校開放事業と違い、個人で借りることができ、管理人も常駐していることから、体育センターと同じ貸出し方法となっているのではないのでしょうか。

また、メインアリーナは、高小が優先して利用すること以外は、サブアリーナと利用条件について何ら変わりがないと思います。サブアリーナの面積は、体育センターの半分となってしまうので、ただでさえ球技ができる場所がないのに、子供たちの遊べる居場所が減ってしまいます。隣り合わせにあるサブアリーナでは無料開放ができるのに、メインアリーナではそうした運用がなぜできないのかよく分かりません。小・中・高生にも分かるように、できない理由を分かりやすく教えてください。

○議長（杉浦辰夫） 文化スポーツグループ。

○文化スポーツG（鈴木明美） まず、市内の公園で球技ができる場所がないというところがございますけれども、高浜芳川緑地多目的広場のほうにおきましては、予約が入っていないときには自由に利用できるということで、お伝えさせていただきたいと思います。

それから、体育センターの面積からサブアリーナの面積になると半分になるということがございますけれども、体育センターの貸出し面積が934平米、サブアリーナのほうは672平米でございますので、半分にはならないというところがございます。

それから、メインアリーナについて、サブアリーナと同様に一般開放の制度をとということでございますけれども、まずは、サブアリーナのほうで一般開放の制度を進め、必要があれば検討していくという形を取ってまいりたいと思います。

なお、一般開放については、現在、コロナの関係で利用の中止をしているところでございますので、併せて御理解いただければと思います。

○議長（杉浦辰夫） ほかに。

16番、倉田利奈議員。

○16番（倉田利奈） 昨日の黒川議員の質問で、青少年ホーム跡地活用事業における残土処理に

ついて、訴訟中ということでお答えにならなかったんですが、まず、裁判は公開となっておりますし、刑事事件ではなく民事訴訟になりますので、議会で説明することに全く問題はありせん。裁判所で説明はできても市民には説明責任を果たさないということに対し、市民から怒りの声が届いております。

しかし、今からお聞きすることは、訴訟と全く関係のないところですので、しっかりとお答えください。

青少年ホーム跡地から出土した産業廃棄物の体積、立米から重量、トンへの換算係数は2、または2以上になります。県が示している換算係数表を私は確認しましたが、2またはそれ以上の係数がありません。もし係数が2であれば、産業廃棄物が全てコンクリートのかたまりかそれ以上の重いものになってしまいます。私は実際に青少年ホームの跡地に積み上げられた産業廃棄物を確認していますが、7割から8割以上は土でした。また、積み上げられた産業廃棄物の写真も確認しましたが、ほとんどが土でした。なぜほとんどが土である産業廃棄物の係数が2になるのか、分かりやすく御説明ください。

○議長（杉浦辰夫） まず、答弁される前に、倉田議員に申し上げます。

今の質問に対してですけれども、この内容については、議会運営上の明確な法的な規制はございませんが、現在係争中の論点であり、司法に委ねられた案件であることから、今後の裁判の審議において、この一般質問での答弁が場合によってはどちらかの有利、不利に働くことの可能性があるともしいきれません。

議長としては、議会のモラル上、倫理上のこととして、係争中のため答弁を控えたいという当局の答弁を尊重したいと思っておりますので、その御理解をよろしくお願ひしたいと思っております。

係争以外のことであれば結構です。

16番、倉田利奈議員。

○16番（倉田利奈） 昨日、木村部長のほうから、係争の点について3点おっしゃっていたと思うんですね、法的な解釈という点で。それとは全く関係ない質問ですので、今回のことに関してはきちんとお答えいただきたいと思っております。

○議長（杉浦辰夫） その内容に関係ないことであれば、答弁をお願いいたします。

企画部長。

○企画部長（深谷直弘） 今、直接は関係ないというようなことを16番議員に申し上げましたけれども、全部、廃棄物の処理というのは、今回の係争案件の中に全て不可分密接に関わってくる内容でございますので、答弁は控えさせていただきます。

○議長（杉浦辰夫） 今の答弁ということですので、よろしくお願ひしたいと思っております。

ほかに。

6番、柴田耕一議員。

○6番（柴田耕一） 1点だけ確認をしたいと思います。

昨日、12番議員の答弁の中で、公共施設の総合管理計画の推進プランのことを進めるというふうに市長、その他の部長連中もお話しになったんですけれども、とにかく取小とか教育施設の取小、それから吉浜、あと吉浜北部保育園、来年なり次年度なりに引き続きこの推進プランのとおりに進めていただけるのか、そこら辺の確認だけ。財政上厳しいとは思うんですけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひますけれども、確認をお願ひします。

○議長（杉浦辰夫） 総務部長。

○総務部長（内田 徹） 昨日の御答弁の中で、高取小学校、吉浜小学校の大規模改修の設計については、現時点ではございますけれども、令和3年度の予算の中で上げていきたいということをお申し上げました。

吉浜北部保育園もそういった大規模改修の時期を迎えております。限られた財源の中で、私どもとしても、こういったもの、公共施設の総合管理計画の進め方、あと教育施設の機能向上、こういったことは進めてまいりたいとは考えております。

いずれにいたしましても、推進プランの計上につきましては、令和3年度の当初予算のときにまた改めてお示しをさせていただきます。現下のコロナ状況の中で、そのような方針を持っておりますけれども、必ずしもそうならない場合もありますことを御理解いただければと思ひます。

○議長（杉浦辰夫） ほかに。

15番、内藤とし子議員。

○15番（内藤とし子） 昨日の16番議員の質問の中で、要介護者を介護している方が感染者となった場合、どうなるのかという質問にお答えがなかったと思うんですが、その点。

○議長（杉浦辰夫） 介護障がいグループ。

○介護障がいG（野口恒夫） 昨日答弁させていただいた内容で、繰り返しになるかもしれませんが、要介護者、その家族が感染した場合でも、その家庭環境だとか、あと要介護者を支援している周りの状況、こういったものは様々でございます。また、症状に至っても様々、それぞれ違いますので、患者さんの状況を踏まえて、保健所の指示を頂きながら、その方のニーズに合った支援策を講じていく必要があるということをお答弁させていただいたところでございます。

○議長（杉浦辰夫） ほかに。

15番、内藤とし子議員。

○15番（内藤とし子） いろいろな軽症、重症いろいろあるのは分かりますが、感染者が要介護者を見ていたのではやっぱりまずいわけで、感染者は要介護者と別にならなきゃまずいわけで、そのあたりはどのように、要介護者はどうなって、感染者はどうなってということをはっきりしていただきたいんですが。

○議長（杉浦辰夫） 介護障がいグループ。

○介護障がいG（野口恒夫） 例えの話でございますけれども、濃厚接触者でなければ、公的なショートステイだとかそういったものを御利用していただければいいかなと。

では、仮に濃厚接触者であった場合、この場合は、なかなか公的なサービス、受入れがちょっとできませんので、保健所の指示の下、介護サービスが提供できる施設、そういったところに入所というふうになるかと思えます。

○議長（杉浦辰夫） ほかに。

7番、長谷川広昌議員。

○7番（長谷川広昌） 昨日の16番議員の質問では、コパンスポーツクラブの支払い猶予の関係を細かく時間をかけて聞いておられました。支払い猶予したお金については、12月が支払い猶予期限と伺っております。市に納入はあったのでしょうか。

○議長（杉浦辰夫） こども未来部長。

○こども未来部長（木村忠好） 12月に入りまして、既に納入がされております。

○議長（杉浦辰夫） 7番、長谷川広昌議員。

○7番（長谷川広昌） ありがとうございます。きちんと期限までに納入され、安心しました。

結果、コロナ禍の緊急対応として市が支払い猶予したことは、適切な判断だと思います。

以上です。

○議長（杉浦辰夫） ほかに。

[発言する者なし]

○議長（杉浦辰夫） 関連質問もないようですので、以上で関連質問は終了いたしました。

以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

再開は12月11日午前10時であります。

本日はこれをもって散会いたします。御協力ありがとうございました。

午前11時33分散会
